

# 翠風園 ひかり通信

Vol. 5 冬号



- 発行月： 平成21年12月
- 制作・発行： 社会福祉法人 正瑛会  
デイサービスセンター翠風園  
ヘルパーステーション翠風園  
グループホーム 翠風園  
理事長 野水 清志
- 所在地： 〒950-1236  
新潟市南区高井東2丁目13番33号
- 連絡先： 025-362-7600
- ホームページ： <http://www.suifuen.jp/>



## ご挨拶

グループホーム  
計画作成担当者

杉澤 洋子



庭の山茶花さざんかが、色艶やかに目に映る季節となりました。平成十七年三月に産声を上げた、グループホーム翠風園は、来年満五年を迎えます。未熟な私達が今日まで歩んで来られましたのも、地域の皆様はじめ多くの方々のお蔭と、心より感謝申し上げます。今年も残すところ後わずかとなって参りましたが、皆様にとってはどんな一年だったでしょうか。

私はこの一年、無事健康に過ごせた事が何より嬉しく、又有り難い事だと思っております。これはどなたも当たり前の様に口にされる言葉ですが、私にとりましては、ある時を境にとっても意味を持つ言葉になりました。七年前、私は思いもよらぬ病気で手術を受けました。治ったように見えたのですが、又二年後に再手術。そして更にその三年後には新たな病気が見つかり、入院、手術をしました。そんな事ばかり繰り返している、必然的に「命」という事に向き合う自分がありました。術後、麻酔から醒め、ベッドで天井を見つめながら、人は「生きる」のではなく、「生かされている」ものだと、身をもって感じずにはいられませんでした。人は一人では決して生きて行けません。多くの人に支えられ、助けられているからこそ生きていけるのです。

今、私はグループホーム翠風園で、認知症共同生活介護という形で、お仕事をさせて戴いております。当たり前の様に、毎日穏やかに健康で過ごす事が出来る。そして元気に働く事が出来る。この当たり前こそが、私にとって幸せなのです。

人の心は、力より優しさに動かされるものだと、この介護の仕事をさせて戴く中で学びました。知識や技術は確かに大切ですが、何よりも必要なのは、人の気持ちを温められる優しい心、「真心」なのです。私達は、日々入居者様と共に生活する中で、真心を育てて戴いております。

入居者様とご縁を戴いた事に感謝し、共に楽しみ支え合い、皆様お一人おひとりがより自分らしく健やかに過ごして戴ける事を大切に、努めて参りたいと思います。今後共、宜しくお願い申し上げます。

鍬や桶等、昔懐かしい道具が用意されています。



# デイサービスセンター

## 水と土の芸術祭

新潟市で七月から十二月まで、市をあげての大きなイベントである「水と土の芸術祭」が開催されました。この芸術祭の趣旨は、「阿賀野川と信濃川という二つの大河に恵まれ、時には水と土と聞いていながら共に生きてきた新潟を舞台に、水と土へ感謝し、先人に敬意を表し、ここから生まれた文化を大切にして、次の世代を担う子供達に伝えていきたい」というものです。そして、その水と土の記憶を持っている道具達を用いながら様々な芸術作品に現し、新潟市の各地に展示されました。

今回、正瑛会の評議員のお一人の方が、芸術祭の「水の記憶プロジェクト」に深く関わっていらっしゃり、この水の記憶に関する作品第一号のモデル事業として、正瑛会の利用者様が参加させて戴けることになりました。

おおよそ一年前の十二月、アーティストの方と、紹介して下さいった評議員の方、市の職員の方が来園されました。そして、昔農作業などで使われた道具や民具を持参され、（水と土の記憶を持っている道具達）その道具達の上に一枚の紙を置き、色鉛筆で塗って表現する「フロッタージュ」という技法の説明をして下さいました。デイサービスでは、その日ご利用の利用者様に参加して戴き、紙をのせて色鉛筆でなぞると、道具達の文様が次々と映し出されて、「あら不思議・・・」と驚きの声が聞かれました。

また、あちらこちらで民具を愛おしそうに撫でていらっしゃったり、若い職員に「昔はね、この板に着物を干したのよ・・・」など、話が尽きませんでした。次々と浮かび上がってくる民具などの模様によって、利用者様の記憶、思い出をも呼び起こして下さる有意義なひと時となりました。



洗濯板を敷いて色鉛筆を擦ると、木目が浮き上がりました。







## 水と土への感謝祭

また、今年の七月の行事として、デイサービスでは「水と土への感謝祭」を行いました。

この感謝祭は、行事担当者となった二十代の職員が「水と土の芸術祭」の趣旨に感銘し、人生の大先輩である利用者様から、水と土にまつわる歴史、感謝の想いを是非継承させて戴きたいという熱い想いが発端でした。

そして、ある利用者様が次の様に話して下さいました。

「今度は、水と土の感謝祭をするんですね。そういう事をするから翠風園は素晴らしいと思います。人はね、何でも自分一人で作ってきただと思っています。また、自分がやったんだと、あちらこちらで主張ばかりします。でも、本当に作ってきたのは自然の水や土です。自然の恵みがあってこそ、人は作ることが出来るんですよ。」

また他の利用者様は「水のお蔭で生きる事が出来るから、有り難いです。昔は何も無かったから、自分達で考えて、頭を使って必要な物は作り出さなければなりません。物が何も無いとある時よりも頭が働くものです。何も無くて当たり前の時代でした。苦労したとは思わないけれど、今こうしていただける事に感謝しています。今の時代のように物がある事は素晴らしいけれど、あんまりにもありすぎて有り難味が無くなっていますね」と教えて下さいました。

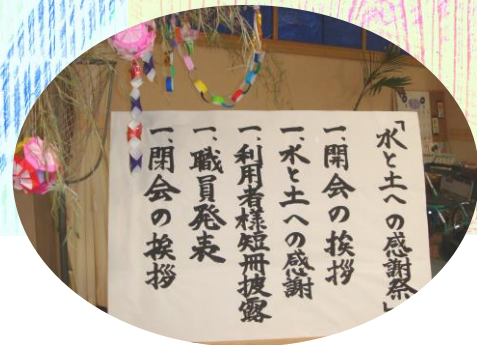
皆様のお言葉が私達の胸に沁み入り、利用者様、職員全員で、それぞれの感謝の想いを短冊に書きました。



期間中は、横越にある体育館で展示されておりました。  
何万枚とある中に、利用者様の作品も含まれています。



水の映像を上映しながら感謝の想いを送りました。



次に、今回の「水と土の感謝祭」で、特に印象に残ったお言葉を紹介させていただきます。

御利用者のA様

「土から植物が育ち、また土に帰ります。昔から続いている素晴らしい土の循環です。万物はずっとそれを繰り返して、その中で人間は生きて来ました。自然の恵みは有り難いです」

御利用者のB様

「土の有り難さは無限です。水の有り難さは、水が無ければ人間だって生きていけません。その代わり猛威を振るう時もあります。どっちも欠かせません」

御利用者のC様

「稲や野菜を提供してもらい、生涯忘れられない感謝をしています」

御利用者のD様

「水と土が無ければ植物も人間も育ちません。水と土が無ければ、どうしようもありません。大切にに使わせて戴きます」

今回の感謝祭では、私達が如何にこれまで水と土の恩恵を戴いてきたのか、利用者様のお言葉のお蔭で初めて気が付かせて戴き、目の覚める様な思いがしました。私達職員は、今日まで当たり前前の様に、水を使い、土の恵みを戴いて来た事を省みて、「生かして戴いていた・・・」と、深く実感させて戴いた日でした。

また、「今は、蛇口をひねると水が出てくる・・・昔からみれば夢のような時代だ・・・」と、ある利用者様は遠くをみつめながら話して下さいました。先人の方々のご苦勞と知恵によって、今豊かに暮らせることにも感謝いたします。



白根の大地を画いたボードに皆様の短冊を貼りました。



利用者様から短冊を発表して戴きました。



# 水と土への感謝の言葉

事務職員 山口喜久子

私は翠風園で毎朝、晴れの日に庭園の水掻きをしています。大地に水が沁み込んで「ジュワジュワ」とする小さな音が、美味しそうに水を飲んでいる様でとても嬉しく、私は水撒きがとても好きです。

しかし今回、水と土への感謝祭に当たり、或る利用者様が「人は、水くれは出来るけれど、水を作る事や雨を降らせる事はできません」と仰ったお言葉に、私はハッとしました。私は、心の何処かで「自分が植物に水をあげている」と思っていた自分に気が付きました。

水は、地球様が下さっているのです。雨の水も、水道の水も、全て大自然の恵みが与えて下さっているのです。自分が草花に水をあげているなんて、何と傲慢な思いなんだと恥ずかしくなりました。今まで自分も水に対して感謝してきたと思っていたけれど、余りにも表面的で浅い自分をつくづく感じました。私はいつの間にか、水は蛇口をひねれば好きなだけ出てくる事が当たり前感覚が育ってしまったのだと思います。お水さん、本当にごめんなさい。恩恵を忘れた私を許して下さい。

お水さんは、いつもいつも只ひたすらに、私に生きる力を与え続けて下さり、私を育てて下さいました。生かして下さいました。本当に有り難うございます。この恩恵を忘れずに、私もお水さんのように、人を生かし、育ち合えるような人間になりたいと思います。

そして今回、土の事を考えながら草取りをしていて、気付かせて戴いた事がありました。土は、向日葵やクローバー等のどんな草花でも、又、蟻やミミズ等の昆虫達も、そして私の事も、全てを受け入れ、育てて下さっているのだという事です。

私は、今年一年の目標を「受け入れる」にしています。それは私の中に、良い事だけを受け入れ、自分にとって嫌な事、悪い事を受け入れない気持ちがあるからです。

しかし大地は、ありとあらゆるものを受け入れて下さっています。全てが尊い存在なのだと思えます。私の足りない処を教えて下さっていました。

大地さん、私を受け入れて下さり、有り難うございます。私も自分の狭い価値基準を卒業し、全てを受け入れられる大きな人間になれるよう、大地さんに習いながら、毎日を生きて行きたいと思えます。

お水さん、大地さん、いつも本当に有り難うございます。心から感謝します。

私は、生かして戴いて居る事を肝に銘じながら、毎日を精一杯生きて行きます。お水さん、大地さんをお手本にさせて戴き、日々習わせて戴きます。そして、自分を成長させて行きたいと思えます。どうぞこれからも宜しくお願いします。



# ヘルパーステーション



山崎 文子

はじめまして。今年の四月からヘルパーステーションでお仕事させて戴いています。少し自己紹介をさせて戴きます。生まれと育ちは長岡市で、五年前に結婚をし、隣の見附市に移りました。老人福祉施設での仕事を続け、その後二人の娘が産まれました。今年、上の娘が年少にあたる四歳まで成長した事もあり、主人の実家がある白根へ引っ越して来ました。縁あってこちらに勤め、また引っ越して七カ月、ようやく周りの環境に子供とも慣れ、落ち着いた生活が送れる様になって来ています。

仕事では、以前からいらっしゃるヘルパーさんに比べてまだ力不足の点もあるかもしれませんが、利用者の方々の「いいよ。いいよ」という、とても温かい心遣いに助けて戴いています。

私が仕事を始めてすぐ、南主任から「どういう風に仕事をして行きたいですか？」と質問をされ、「仕事と育児を楽しく両立したい」と答えました。もちろんどちらも直ぐに両立出来る訳ありませんが、翠風園の職員の方々が園の前庭と浴道の草花を、真夏の日も帽子を被りお手入れをされているのを見て、ハッとしました。

お話を聴くと、職員全員で毎日五分くらい、草むしりやお手入れをされているというのです。ヘルパーでも職員の「毎日五分のお手入れ」を見習い、翠風園に立ち寄った際には、「一日十本の草むしり」を実践させて戴きました。



(右上) 左から山崎さん、利用者様、先輩ヘルパーの眞保さんです。

(左) 家事援助の様子。援助は、掃除、料理の他にも利用者様のご希望にそって計画を立て、実施しています。







僅かな時間ですが、心の交流も大切にします。

私はあまり実行できず、時々取っただけでしたが、浴道と庭のお花はいつも綺麗に咲いていました。職員全員の協力でこんなにも綺麗な空間が出来るんだと、とても感動しました。  
仕事も育児の両立も同じ事です。ただ自分一人が楽しいのではなく、周りの人達と協力して「楽しく両立」へと繋げていける様な毎日を過ごすことが大切なんだと感じました。  
もちろん楽しいことばかりではありませんが、少しでもそうなる様に、これからも頑張っていきたいです。

### 《編集部より》

今回は紙面でヘルパーの仕事の紹介をしたいと考え、ヘルパーと一緒に訪問先に伺わせて戴きました。何方も温かく迎え入れて下さり、本当に有り難うございました。カメラを片手に数枚の写真を撮りながら、ヘルパーの仕事ぶりに驚きました。その日の希望の料理法を確認し、すぐトントントンと軽快な包丁の音が聞こえて、手際よく作業を進めていきます。そして、利用者様から味見をして戴いてOKが出たら調理終了です。その間、利用者様は安心した表情で過ごされていました。ヘルパーを利用者様が心から信頼して下さい、とても楽しみに待っていて下さるお気持ち伝わってまいりました。

また、利用者様から人生の経験談を聴かせて戴いたり、時には撮影時の心得を教えて下さった方もいらっしゃいました。「写真は後世に残るものだから、ただ撮れば良いのではなく、その人が一番美しく見える顔の角度や背景も考えることも大事ですよ」と、ほんの僅かな時間でしたが利用者様の人生に触れさせて戴き、大変勉強になりました。心から感謝申し上げます。



長年ダンスを続けて来られ、この一着は思い出の沢山詰まったドレスだそうです。あまりに素敵だったので、一枚撮らせて戴きました。

# グループホーム

## 納涼祭



グループホームでは、一年を通じて毎月様々な行事を取り入れ、入居者様に楽しんで戴いております。四季折々に合わせた行事や、毎年必ず行う年中行事等、季節感を味わい、また日本の伝統に触れて戴けるよう、企画をしています。季節ごとの行事の中でも、とりわけ八月に行われる納涼祭は、入居者様も職員も楽しみにしている行事の一つです。

今年も、入居者様全てのご家族に案内状を差し上げ、八月二十三日に多くのご家族の参加の元、楽しく盛大に執り行う事が出来ました。みんなで一緒に昼食を頂いた後、童心に返り昔懐かしい縁日の気分を味わって戴こうと、水ヨーヨーを初め、盛り沢山の催し物を計画致しました。

当日は、職員はもちろん、入居者様ほとんど全員に浴衣を着て戴きました。最初は恥ずかしそうに「浴衣なんて着なくていいよ」と仰っていた方も、職員に勧められ、着付けを済ませお化粧もされると、背筋が伸び、表情まで華やかに若くなられます。凜とした素敵なお姿に、職員は思わず見惚れてしまいました。



お祭りならではの水風船や、輪投げなどのゲームをして盛り上がりました!! 皆さんとても素敵な笑顔です。



手作りの看板で夏らしさを演出しました。



入居者様、職員が皆揃って浴衣に着替え、園内はとても華やかです。





中には、「この年になって浴衣を着るなんて、夢にも思わなかった。とても嬉しい」と涙ぐまれる方もいらっしゃいました。

入居者の方々に、少しでも思い出になるひと時を作って差し上げたい。そして普段離れているご家族と共に、心豊かなひと時を過ごして戴きたいという、私達職員の想いから生まれた企画でした。

何より嬉しかったのは、思いもよらぬ大勢のご家族が参加して下さった事でした。関東からの遠距離を車でおいで下さったご家族。息子様ご兄弟が揃って参加して下さいました。又、ある方はお孫様も一緒に参加して下さいました。そして忙しい仕事の合間を縫って「少しの時間でも母と一緒に」と、駆けつけて下さった息子さんも居られました。ご家族の皆様には、本当に有り難く心より感謝申し上げます。

一期一会という言葉があります。茶道に由来する心得、おもてなしの諺ですが、「貴方とこうして出会っているこの時間は、二度と巡っては来ない、たった一度きりのものです。だからこの一瞬を大切に思い、今出来る最高のおもなしをしましょう」又、「いつも当たり前前のように会えて、今日も会えたけれど、明日も会えるとは限らない。だから、もう二度と出会えないかも知れない位の覚悟で、大切にその人に接しなさい」という意味があるそうです。

私達職員は、入居者様と生活を共にさせて戴く中で、入居者様とご家族から、一期一会の精神を学ばせて戴いていると実感しております。今後とも様々な出会いを大切に、皆様に学ばせて戴きながら過ごして参りたいと願っております。



おやつの中には、入居者様より乾杯のご発声をして戴き、園内は更に盛り上がりました！！



夜は花火で夏を満喫しました。



デイサービスの納涼祭にも参加し、大勢で楽しみました。



# 心に残った出来事 ～敬老会～

九月十七日から二十三日まで、「敬老会」を行いました。毎年、私達職員が今出来る精一杯の真心と、利用者様・入居者様への日頃の感謝を込めて、行わせて戴いています。今年も、手作りの記念状と、記念品として貝のキーホルダーを作って皆様にお贈り致しました。そして、職員代表として数名が利用者様へ、感謝の想いを述べさせて戴きました。今回は、グループホーム職員の諸橋直子さんの感謝の言葉を紹介致します。

## 敬老会 感謝の言葉

諸橋 直子

敬老の日にあたり、皆様に心よりお祝い申し上げます。  
誠におめでとうございます。

私達職員の声かけに、いつも笑顔で答えて戴き、また手作業をお願いしますと、快くやって下さり、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。いつもいつも、有り難うございます。

私は皆様の仕事の丁寧さ、速さに、いつも驚かされております。私は不器用なのでなおのことです。それは、皆様の手を見させて戴くと納得いたします。

一家の大黒柱として家族を支えてこられた手は、逞しい限りです。農家で精一杯働かれた手は、節々が太く厚い手です。とても繊細なスラッとした指は、洋服や和服仕立てをやってこられた手です。ペンダコのある手は、たくさんの書類を記入してこられた手です。手は、その人の人生を物語っているのですね。ちなみに私は皆様に、「あんたの手は丸々としておいしそうな手だねえ」と褒めて戴いています。

大正、昭和、平成の時代を過ごされました皆様の深い人生を、私たちは計り知る事もできませんが、皆様の人生を物語っている、その厚い温かな手をお手本として、私たち職員も人生を精一杯積み重ねて行きたいと思えます。

これからお元気で、いつも私達の目標にさせて下さい。皆様と共に過ごさせて戴ける日々に、心から感謝しています。  
本日は、本当におめでとうございます。



「利用者様といつも手と手を繋いで参ります」 職員 諸橋





お一人おひとりに、手作りの長寿記念状を贈呈しました。集合写真入りです。



利用者様にはお祝いを記念して、胸に名札を付けて戴きました。

続きまして、今年の敬老会はデイサービスとグループホームが初めて合同で、企画・準備にあたりました。敬老会后、グループホームの行事担当者だった寺崎和美さんより、次のような感想が寄せられましたので、紹介させて戴きます。

### 敬老会を終えて

寺崎 和美

毎年、敬老会ではデイサービスの職員が、利用者様に感謝の想いを込めて、熱気溢れるヨサコイソーランを踊られるのですが、「今年はグループホームの職員も、旧バージョンの簡単な方のヨサコイを踊ってみませんか」と声を掛けて戴きました。

然し、もう敬老会までの日にちが迫っており、グループホームは今回、合唱をさせて戴こうという事に決まりました。私は、以前デイサービスに勤務し、自分の子供位の年若い職員に交じってヨサコイを踊ったことがあり、共に汗を掻きながらの練習は、職員同士の結束も培われていくようで楽しく、上手下手よりも自分達の心意気を利用者様に伝わるのだと確信したことがありました。

私は、合唱の練習を続けながら、ある想いが湧いてきました。ヨサコイの踊りを今後に繋げていきたい…。そこで今回、デイサービスに交じって一人でも踊ろうと決めました。私が踊ろうと思ったのは、「寺崎さんが踊れるのだから、私も踊れる」と思って欲しかったからです。

その後、業務の合間に踊りの練習をしている内に、周りの職員も一人二人と興味を持って一緒に練習して下さり、入居者様からも「また踊って！」とリクエストをされる程でした。そして、敬老会当日は、グループホーム職員で合唱をし、私とユニットリーダーの浅間さんの二人は、デイサービスの職員に交じって、ヨサコイを一生懸命踊らせて戴きました。踊り終えた後は、充実感で一杯でした。

今回のことで、練習期間が有る無しではなく、大事なのは気持ちの問題であると気付かせて戴き、これからも自分の足元であるグループホームで、翠風園の気風と秩序を根付かせる為に努めて参りたいと思います。



女性職員による合唱コーラスもご披露しました。



職員手づくりの記念品のキーホルダーです。



デイ・グループホーム職員で、恒例のヨサコイを披露しました。



# 職員紹介

真心溢れる援助で、信頼されています

デイサービス 鈴木 敦夫

介護の仕事に就く前は「ケア」とは、職員が利用者様に対して行うものだと思いますが、今は、私達職員自身が人生の大先輩の利用者様からケアをされ、育てられているのだと、分かってある所です。人生の大先輩である利用者様から謙虚さや感謝の心を習い、仕事の中で気配りや礼節の精神を身に付けられるよう努めて参ります。



常に前向きで元気ハツラツです

グループホーム 萌木 佐藤 菊美

グループホームに勤めております、佐藤です。

入居者の方々が、私達職員を時には娘、息子やお嫁さん、または孫のように思ってくださいます。まるで家族のように思ってくださいます。とても嬉しく思います。

今日のこの一瞬、一瞬を大切に、努めていきたいと思えます。



細やかな気配りを欠かしません

ヘルパーステーション 大森 しげ子

ヘルパーステーションで働かせて戴いて六年目を迎えました。

一人で利用者様のお宅を訪問し、与えられた仕事をきちんとこなして来なければなりません。一番大切な事は、利用者様との信頼関係であると思っております。気配り、目配り、心配り、そして笑顔と元気を常に忘れない様、一生懸命頑張りたいと思えます。

